

BASIC - SDGs実践に向けたアイデアブラッシュアップ°

- ・「社会変化の兆し」の感度を高めた後、「社会・政府がやること」・「当社がやること」・「自部門・自分がやること」までをロジックモデルで整理するワークとグループ討議を支援

社内有志団体 + サステナビリティ推進室



過去に実施した研修では活発な議論があったものの、飛躍アイデアが多く、実践に向けたステップが見えず消化不良になっている。本業にてサステナビリティに貢献してきた企業として、自社が保有する技術や人材を他テーマに活かしたい。

参加者



社内公募による有志80名程度
(部門横断、中堅・管理職中心)

プロジェクト 概要



- ① 事前課題として「社会変化の兆しを感じるニュース」(日本総研選定)を読み、特に大きな変化と感じたニュースを選ぶ
- ② 講師によるサステナビリティを巡る動きのレクチャーと事前課題を基に、今後10~15年で起こりそうな社会の変化を、市民の価値観、技術、市場の軸で考える
- ③ SDGsを起点に、中長期的に自社や自分の業務が貢献できることをバックカスティング型のロジックモデルで整理する。グループ討議によりアイデアをブラッシュアップ後、参加者全体に共有する

本事例の ポイント



- ・ 本業がサステナビリティとの結びつきが強く、視野を広げるため「社会変化の兆し」に関する感度の醸成と、アイデアの論理性の補強を一体的に実施した
- ・ 社内に点在する問題意識をともしする同僚の見える化 + 部門横断のディスカッションで、自社のケイパビリティの認識を深めた

出所：日本総研作成

BASIC - サプライチェーン上のサステナビリティに対する理解度向上

- ・ 自社事業に留まらない業界連携でのアプローチ検討や、ステークホルダーの課題への理解醸成を図るため、若手が中心となりサプライチェーン上の課題調査・マッピングを行い、アクションプランの役員報告会等を実施

執行役員



グローバルに事業を展開しており、脱炭素の取組は喫緊の課題。顧客からサステナビリティ対応の要求が高まっており、入札などでも条件の対象となってきた。これを機に、社内の各部門の若手中心のサステナビリティのプロジェクトチームの底上げも図りたい。

参加者



社内各部門の若手20名程度によるタスクフォース

プロジェクト概要



- ① 国連等の国際機関、欧州委員会や各国政府の動向を把握するための情報収集する
- ② 事業別に、サプライチェーンのどこに・どのようなサステナビリティの課題があるのかをマッピングする
- ③ サステナビリティ視点を加えた、事業分野別の新規事業・アクションプランをまとめ、幹部への発表会を実施する

本事例のポイント



- ・ 変化の激しい海外の動きを把握することで、ステークホルダーの抱えている課題を理解し、本業での顧客とのコミュニケーション向上の循環を整える
- ・ 将来コアとなる社員のスキルを伸ばしながら、経営層も最新情報や、現場からの情報を吸い上げる機会をつくる

BASIC - 一般職まで含めた全従業員への浸透

- 「全従業員」への浸透のため、企画職のみならず一般職・工場従業員も対象としたプログラムを実施

社長



創業100周年。これからも社会とともにあり続け、貢献できる企業でありたい。SDGsについて、一般職や工場の従業員も含めた全員へ浸透をしたい。

参加者



課長職全員→課長職がリーダーとなり、各工場・事業所の一般職含む全社員へ展開

プロジェクト
概要



- ① 日本総研より、課長職に対し、サステナビリティを巡る概論のレクチャーと、日々の業務とSDGsの関係性を考えるワークを実施
- ② 課長職がリーダーとなり、①を各工場・事業所の一般職員含む全社員へ展開。日本総研はオブザーバーとしてフィードバックを実施
- ③ 若手社員を中心に、自社の特徴や強みと社会課題の接点を洗い出し、アイデア出しを実施

本事例の
ポイント



- ・ 自らが教える側になることで、管理職のなかでの理解が深まる
- ・ 全ての部署・工場の日々の活動と、社会課題、SDGsを結びつけ。創業100周年とあわせ、次世代に想いを引き継ぐ場としても活用

出所：日本総研作成